SUPPORTERS CLUB NEWS

鷹山宇一記念美術館友の会会報

TAKAYAMA-UICHI MEMORIAL MUSEUM OF ART

第87号

平成29年6月15日発行　鷹山宇一記念美術館友の会
〒039-2501 青森県上北郡七戸町字荒熊内67-94　七戸町立鷹山宇一記念美術館内
TEL 0176-62-5858　FAX 0176-62-5860　e-mail info@takayamamuseum.jp　http://www.takayamamuseum.jp/

鷹山宇一　「森の馬」　1960年代　（キャンバス・油彩）

「画家鷹山宇一のはじまり」

生涯現役で活躍し続けた鷹山宇一。私は、彼を絵描きの道へと導くことになった「初山滋」という人物が気になった。それは鷹山が小学校4年生の時。当時のことを次のように語っている。

―小学校4年の当時受持教師であった歌人青山哀囚の文学的な薫陶は今なお脳裏に残るのである。この教師に接することがなかったらおそらく別の道に進んでいたことであろうか。―（美術誌「美術ジャーナル」掲載『蒼の東洋的幻想』鷹山宇一より）

「別の道に進んでいたことであろうか」という言葉からその影響の大きさがうかがえる。青山哀囚は児童文学雑誌「赤い鳥」を教え子に回覧させた。特に少年鷹山の心を掴んだのが初山滋の描くロマンティックで幻想的な世界である。鷹山を絵描きの道へと進ませた初山滋はどんな絵を描いていたのだろうか。

初山滋は、大正6年に初めて、少年のための月刊総合誌「少年倶楽部」の口絵を担当し、その後「おとぎの世界」「コドモノクニ」から絵本に至るまで、挿絵や装丁にロマンティックで幻想的な童画の世界をつくりだし、版画家としても活躍した人物だ。恥ずかしながら今回初めて初山滋の絵を拝見した。透明感があり、胸にすっと入り込んでくるような何とも美しい色使い、そして画面全体が清々しい空気に包まれており、子どもでなくてもその世界観にうっとりしてしまう。

私は、鷹山先生のある絵を思い出した。今回表紙に選んだ「森の馬」である。深い緑に覆われた森の中、上を見上げると青い空が覗いている。画面手前では蝶が3匹舞い、奥では一頭の馬がこちらを見ている。ぽつぽつと黄色く浮かび上がるのは花だろうか。より一層この空間を幻想的な世界へと導く。おとぎ話の1ページに出てきそうな作品である。

実際に、初山滋の影響がその後の鷹山の絵にどのように現れているのかどうかは、私自身の今後の研究課題ともいえるが、絵の持つロマンチックで、幻想的な雰囲気が似ていると感じた作品である。

少年鷹山の心を魅了した初山滋の絵に、私もすっかり心を奪われてしまった。

学芸員　遠藤未奈子

鷹山宇一記念美術館友の会

平成２９年度通常総会開催

鷹山宇一記念美術館友の会平成29年度通常総会が6月10日午後2時から開催され、平成28年度事業報告、貸借対照表並びに収支計算書及び平成29年度事業計画（案）並びに収支予算（案）等全ての承認議案が原案の通り可決され、本年度の事業体制が整いました。

なお、通常総会議案書を別添の通り同封致します。

本年度も友の会会員各位のご理解とご協力をよろしくお願い申し上げます。

◎承認された平成29年度事業概要について左記の通り報告いたします。

①美術館企画展の監視ボランティア活動

・「ルドゥーテのバラ展」（4月15日～7月9日）

・「矢口高雄の世界 天翔ける童心」展（釣りキチ三平展）（7月15日～9月3日）

・「渡辺貞一生誕100年展」（9月16日～11月5日）

②国内研修旅行の実施

・「茨城・千葉美術紀行」（平成29年6月13日～15日実施）

＊第2回研修旅行は検討中

③会報の発行（年4回　第87号、第88号、第89号、第90号）

④鷹山宇一絵画作品購入資金の積立

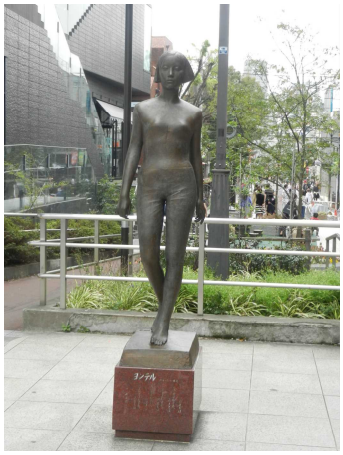
⑤美術講演会の開催（美術館と共催）：未定

⑥第7回海外研修旅行の検討

通常総会議案審議風景

「ヨンデル像」を尋ねて

八戸市　照井壽一



彫刻家・吉野毅氏が2011年度の日本芸術院賞を受賞した際の作品「夏の終わり，11」をいまだ見ることが出来ず残念に思っていたが、4月中旬に東京へ一泊二日の日程でいくことになったので、「吉野毅、夏の終わり」をキーワードにネットで調べたところ、渋谷区表参道キャットストリート入口に原宿の新しいシンボルとして2013年7月に設置された「ヨンデル像」が受賞対象作品「夏の終わり，11」だということを知った。

長年見たいと思っていた日本を代表する彫刻家の代表作を間近でしかも無料で鑑賞できるならばこれほど嬉しいことは無い。

4月17日、宿泊場所の御茶ノ水から地図を頼りに渋谷区神宮前6丁目に佇んでいる「ヨンデル像」を探し当てたとき、ネットで幾度となく、画像を見ていたせいかシャレでは無く、ヨンデル像に呼ばれて原宿に来たような気がした。

台座には、「このまちは、ときをよんでる。このまちは、ひとをよんでる。このまちは、あいをよんでる。このまちは、ことばをよんでる。このまちは、」という堺屋太一氏の詩が刻まれていた。

写真下は、千代田区麹町4丁目交差点に建つ吉野毅氏の作品「夏の想い出」。衣服を着ている彫刻は珍しいと思いながらも、お魚釣りをしているようなあどけない男の子の姿を見て幼い日を一瞬思い出した。

あっという間の2日間、予定していた場所全てを訪問できなかったけれど「ヨンデル像」にあえたから満足。

今度、東京へ来るときは、歩き回るために十分な日程を確保し、神奈川県「横浜みなとみらい21」まで足を運び、ヨコハマグランドインターコンチネンタルホテルの棟頂部（地上140m）に設置され、行き交う船の安全を見守っているという女神像「みちびき」（制作：吉野毅氏）を是非とも尋ねたいと思っている。

ヨンデル像の基本情報

制　作　吉野毅（彫刻家）

住　所　東京都渋谷区神宮6丁目1－10

サイズ　台座含む H 2.3m（女性像のみ H1.7m）

最寄駅　明治神宮前（原宿）

設置日　2013年7月7日

矢口高雄の世界

「天翔（あまか）ける童心（どうしん）」展

7月15日（土）から、特別展「矢口高雄の世界　天翔ける童心展」を開催します。本展覧会では、「釣りキチ三平」をはじめ、矢口高雄氏のこれまでの漫画家人生を代表する作品の表紙絵原画や漫画原稿、貴重な資料を100点以上展示します。誰もが親しめる「漫画」という作品に描かれる矢口高雄の壮大な世界を是非お楽しみください。

漫画家・矢口高雄

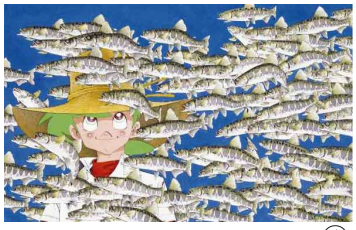
矢口高雄氏は、週刊少年「マガジン」で日本中に釣りブームを巻き起こしました。1939年に、秋田県の雄勝郡西成瀬村（現：横手市増田町）に生まれ、大自然に囲まれて育ちました。無類の漫画好き少年で、自ら描くことにも興味を持ち続け、一度は地元の銀行に勤務しますが、漫画家の夢を断ち切ることができず、1970年、銀行を辞めて上京し、30歳で漫画家デビューを果たしました。

世の中は高度経済成長の真っただ中。改めて自然の尊さが見直されようとしていた1970年代、当時の漫画の傾向と一線を画し、その時代の価値観を先取った「釣りキチ三平」は時流に乗ることとなり、釣りを始めとしたアウトドアブームの火付け役となりました。「釣りキチ三平」や「幻の怪魚バチヘビ」「おらが村」「マタギ」など、自然と人間とのかかわり、本当の豊かさとは、人生の幸せとは何か、についてずっと考え描き続けた数々の作品は、幅広い年齢層の方々に、大きな共感と広がりを見せています。

①

②

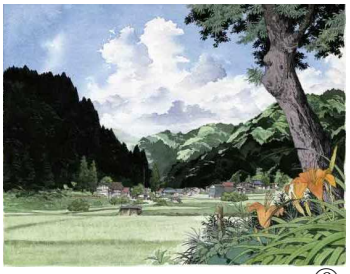
③



④

①O 池の滝太郎©矢口高雄
②ヤマセミ©矢口高雄
③バスフィッシング©矢口高雄
④山魚女群泳©矢口高雄
⑤ホタル©矢口高雄
⑥野萱草咲く頃©矢口高雄

⑤



⑥

【イベント情報】

矢口高雄ギャラリートーク＆サイン会

7月15日（土）／8月12日（土）

ギャラリートーク

10時30分～11時

※申し込み不要・要入場券提示

サイン会

①11時30分～12時15分
②13時30分～14時15分（1日2回）

・会場にて商品を税込み1，080円以上お買い上げのお客様、各回先着50名様に整理券を配布します。
・サイン用オリジナル色紙を当館にて用意します。
・額絵・図録をお買い上げの方には別途商品にもサイン致します。
・お客様がお持ち込みした物品へのサインはできません。
・ギャラリートーク＆サイン会は予告なく変更・中止させていただく場合がございます。

「ルドゥーテのバラ展」Report

7月9日（日）まで開催中の「ルドゥーテのバラ展」。ご来場いただいたお客様からは「版画なの！」という驚きの声がたくさん聞こえ、改めてルドゥーテのその技術の高さを実感しているところです。また、期間中に開催した、チェンバロコンサート、特別記念講演会には多くのお客様にご来館いただき、大変うれしく思っております。

開催式・レセプションパーティ

▲４／１４のテープカットの様子。左から、八戸学院大学短期大学部客員教授・三村三千代様、七戸町議会議長・田嶋輝雄様、七戸町長・小又勉様、青森放送株式会社代表取締役専務・大友寿郎様、新谷勝弘当財団理事長。

チェンバロコンサート

毎月２回行われた、「ルドゥーテ・チェンバロコンサート」は、大変人気で、チェンバロの優しい音色、そして素晴らしい歌声に、会場中がうっとり。中には涙されるお客様も。ルドゥーテの作品に囲まれて聴く演奏はなんとも贅沢な空間でした。今回お招きしたのはチェンバリストの中田聖子さんと佐藤理州さん、ソプラノ歌手の鷹山美緒さんです。中田さんの力強い演奏、佐藤さんの軽快で弾むような演奏が印象的でした。そして鷹山美緒さんの体中に響き渡るような力強くも優しい歌声に大変感動しました。

▲今回演奏しているチェンバロは、ルドゥーテのバラの絵が模写された特別製の「ルドゥーテ・チェンバロ」です。細部まで装飾が施され、音色を楽しむだけでなく、目で見て楽しむことも出来る芸術作品です。その素晴らしい技術に皆さん目をうばわれていました。

三村三千代先生特別記念講演会「源氏物語～花の名前の女君～」

６月９日（金）に特別記念講演会を開催。講師は八戸学院大学短期大学部客員教授の三村三千代先生。

「源氏物語～花の名前の女君～」をテーマに、桐壺の更衣・夕顔など１１人の花のイメージの女君たちをお話ししてくださいました。三村先生の分かりやすく、笑顔溢れるお話しに、お客様も「うんうん」と頷きながら、楽しそうに聞いていました。

「ルドゥーテのバラ展」入館者5，000人に

▲5,000 人目のお客様となったのは、八戸市城北小学校２年生の小笠原颯紀さんです。お母さんと弟の蒼惟ちゃんとともに来館してくれました。

インターンシップに来てくれました！

６月１４日（水）から１６日（金）までの３日間、野辺地高校２年生の和田萌々夏さんがインターンシップに来てくれました。

【和田萌々夏さんから】

今回、美術館に携わる仕事をしてみたいと思い、インターンシップで鷹山宇一記念美術館に来ました。実際、学芸員の仕事の一部を手伝ってみて、今回は単純作業が多かったのですが、好きな美術の近くで働くことができて、わくわくしました。また、奥が深い職業でもあるなと思いました。学芸員にとても興味を持ったので、自分の進路の参考にしていきたいです。とても貴重な経験になりました。

ありがとうございました。

→一緒に資料整理や展示室の看視、受付にも立ってもらいました。こちらこそ、ありがとうございました！

平成28年度
―鷹山宇一記念美術館ものづくりワークショップ―

『美術館アートクラブ』

3月28日（土）【デコパージュ】

28年度最後のワークショップはデコパージュでバッグづくりです。10名の方が参加下さいました。

デコパージュは、キッチンペーパーを特殊な糊で貼り付けコーティングします。キッチンペーパーは1枚に見えますが、実は2～3層になっていて、印刷のある1枚だけを使います。絵柄を組合わせることでキッチンペーパーの雰囲気とは異なり見事な作品に仕上がりました。

平成28年度
「美術館アートクラブ」に参加された方は、総人数105名（スタッフ含む）でした。
参加くださいました皆様、楽しいひとときをありがとうございました。
そして、これからもよろしくお願い致します。

平成29年度
鷹山宇一記念美術館あーとくらぶ

ルドゥーテのバラ展「特別ワークショップ」

いつもは2階工房を使ってワークショップを行っています。特別展中は少しでも多くの方が見て下さり参加していただけるように、絵馬館で開催しました。講師は佐伯知美先生です。

平成29年度ワークショップ開講です！

ルドゥーテ特別ワークショップ1回目

5月20日（土）は「デコパージュでバッグづくり」です。ルドゥーテのバラ柄の他、華やかな柄のキッチンペーパーを使用しました。楽しく制作している様子にお客様も次々と加わり、22名もの参加がございました。30分で出来上がる手軽さもあり、ほとんどの方が自宅で二作目、三作目を制作したいと言っていました。

今回参加出来なかった方、次回特別展でもデコパージュを予定しております。素敵なバッグを一緒に作りましょう。

ルドゥーテ特別ワークショップ2回目

6月3日（土）は「ルドゥーテの塗り絵で額絵をつくろう」です。定員いっぱいの10名の方が参加下さいました。

ルドゥーテの大人の塗り絵を使いバラや果物に色鉛筆で色を塗っていきます。ピンクの花びらを表現したいと思ったとき、ピンク色一色を使って塗ってしまいがちですが、影の部分や光があたっている部分では色が違って見えます。そこで同じピンクでも赤に近いピンクや薄いピンクと何色かの色を組み合わせて塗ることで深みや奥行きが表現できるのです。

はじめは上手く出来るか不安に思われていたようですが、いざ塗り始めたら皆さん夢中。塗り終わった作品を額に入れて完成。素敵な額絵に出来上がりました。

7月1日（土）の特別ワークショップ3回目の様子は次回お知らせ致します。

6月8日（木）【社会見学】十和田市立下切田小学校　様

十和田市の下切田小の4・5年生、4名と先生2名が来館くださいました。

2階工房でせんべいストラップを作成した後、学芸員と一緒に館内を回り美術館の事や展覧会の説明に耳を傾けていました。

次回　矢口高雄の世界「天翔ける童心」
～特別ワークショップ開催～

★8月19日（土）
14：00～17：00
「和がらデコパージュ」
材料：500円、30分ごとの受付です。

★9月2日（土）
1回目　9：30～10：10
2回目10：10～10：50
3回目10：50～11：30
「ペーパークイリングで金魚を作ろう」を予定しております。
材料：500円

皆様の参加をお待ちしております。

美術館日誌

◆4月◆

▼1日（土）展示替え休館
山形美術館出張（館長・遠藤）
▼2日（日）常設展「鷹山宇一の世界」展
▼4日（火）職員辞令交付式
▼10日（月）絵画監査13時（監事）
展示替え休館（～14日）
▼13日（木）ルドゥーテ作品搬入
（マルイ美術）
▼14日（金）「ルドゥーテのバラ展」レセプション
▼15日（土）「ルドゥーテのバラ展」前期開始
▼17日（月）むつ市栄町内会25名来館
▼22日（土）・23日（日）
チェンバロコンサート開催

▼▲チェンバロ

◆5月◆

▼2日（金）ナブコ自動ドア点検
▼3日（土）ルドゥーテのバラ展5千人
セレモニー開催
▼9日（火）会計監査10時（監事）
▼10日（水）茨城県近代美術館友の会
28名来館
▼12日（金）県民カレッジ連絡会議
県校長会講演会（青森／館長）
▼13日（土）渡辺貞一画集作成打合せ会議
友の会旅行説明会2F
理事会
▼14日（日）七彩会
▼16日（火）松本零士展打合せ
（館長・遠藤）
（福岡氏・八住氏・青幻舎／中川氏）
▼17日（水）野辺地高校インターンシップ打合せ
▼19日（金）JAFメイト取材（遠藤）
中部上北相談室鑑賞会7名来館
▼20日（土）ワークショップ
「デコパージュでバッグ作り」
講師　佐伯知美氏
▼20日（土）・21日（日）
チェンバロコンサート開催
▼24日（水）東京NHK打合せ（館長）
▼25日（木）全国美術館会議総会出席
（鎌倉／館長）
▼28日（日）評議員会
臨時理事会
▼29日（月）展示替休館
▼30日（火）「ルドゥーテのバラ展」後期開始

◆6月◆

▼2日（金）青森県博物館総会出席（館長）
▼3日（土）ワークショップ
「塗り絵（額装）」
講師　佐伯知美氏
▼5日（月）（株）タミヤ社長葬儀出席
（静岡／館長）
ゆうき青森農協19名来館
▼6日（火）十和田市下切田小学校6名
社会見学・ワークショップ
▼8日（木）・9日（金）
天間林中学校職場体験2名
▼9日（金）特別展記念講演
「源氏物語～花の名前の女君～」
講師　八戸学院大学短期大学部客員教授
三村三千代先生
▼10日（土）友の会総会
▼11日（日）七彩会
▼13日（火）～15日（木）
友の会研修旅行（茨城県・千葉県）
▼14日（水）～16日（金）
野辺地高校インターンシップ
▼16日（金）横尾忠則十和田ロマン展
「POP IT ALL」レセプション出席
（十和田現美／館長）
蓬田村文化協会16名来館
▼17日（土）・18日（日）
チェンバロコンサート開催
▼20日（火）施設点検（昭和電気）
▼21日（水）上北教育事務所来館
▼22日（木）鮫公民館70名来館
▼30日（金）エルム文化センター来館

▲天間林中学校職場体験

▲入館者5,000人目の
八戸市城北小2年
小笠原颯紀さん（中）
母の真理子さん（左）

▲三村三千代先生特別記念講演

▲ピエール=ジョゼフ・ルドゥーテ

【画像提供】コノサーズ・コレクション東

チェンバロ：中田 聖子氏（左）
ソプラノ：鷹山 美緒氏（右）

チェンバロ：佐藤 理州氏（左）
ソプラノ：鷹山 美緒氏（右）

中井昌美コレクション渡辺貞一生誕百年展に寄せて　Ⅰ

鷹山宇一記念美術館　研究員　　對馬　恵美子

（元青森県立郷土館副学芸課長）

渡辺貞一は、国画会を中心に作品を発表した油彩画家です。貞一は大正６（一九一七）年に青森市三内に、父省三、母あぎの三男として生まれました。父省三は大工の棟梁で東青地区で手広く建築請負業を営んでいました。貞一の生涯は６４歳と決して長いものではありませんでしたが、晩年は、神秘的で静謐さをたたえた独自の画風が、当時の絵画ブームとあいまって人気をはくし、朝日ジャーナルの表紙を飾るなどしました。

渡辺貞一

京都在住の中井昌美（昭和11年～）氏も渡辺貞一作品に強く魅了されたひとりです。中井氏は熱心な美術蒐集家ですが、蒐集作家の中でも特に貞一の画風を深く愛し、その所蔵作品は実に２００点余にのぼりました。中井氏は、今年が貞一が生誕して丁度百年目にあたることから、それを記念して故郷青森県での貞一作品の活用を願い、昨年度（平成２８年度）、七戸町へ貞一のコレクション計１６２点を寄贈されました。９月１６日から１１月５日まで七戸町立鷹山宇一記念美術館を会場にして開催される本展覧会は、中井氏が寄贈された全作品を初公開するもので、まさに芸術の秋にふさわしい催し物といえるでしょう。

さて、渡辺貞一と言っても、ご存知ない方が多いかもしれません。それは、貞一が、戦後東京に居（アトリエ）を構えそこを活動の拠点とした為と思われます。しかし、貞一の兄（次兄の猛）が戦後、下北に開拓入植していたことから、よく兄を訪ね、それがきっかけで下北の画家との交流も活発でした。八戸には親友であり国画の仲間でもあった名久井由蔵をはじめとする多くの画家や文人たちのつながりも深いものでした。さらに貞一は青森市、八戸市、弘前市での個展の開催も頻繁に行っており、故郷、青森県との関係は生涯続きました。

ここで貞一の生涯を紹介いたしましょう。貞一は６４年の決して長いとは言えない人生の中で、なんと３回も「死」に直面しています。

最初の「死」は敬愛する４歳年上の兄、省一（長兄）の死でした。渡辺家の跡継ぎとして周囲の期待を一身に受けていた省一でしたが昭和９年に急性肺炎であっけなく世を去りました。この深い悲しみの中で貞一は「人間は死ぬものだ。生きているうちに好きな絵を描こう。」と強く決心したといいます。兄の死が画家渡辺貞一の出発点となりました。

二度目の「死」は、自分の命と向き合うことになります。１８歳で上京し川端画学校で絵の勉強をし、昭和１６年には国画会展覧会（国展）への初入選をはたしましたが、昭和１８年に大量の喀血でたおれました。帰郷し青森市内の病院に入院するも症状は悪化するばかりでした。貞一は自らの意思で八甲田山中にこもり、修行僧のような生活をおくる中で奇跡的に回復しました。

三つ目の「死」は戦争でした。昭和１８年海軍要員として南ボルネオ島に渡り、昭和２０年にはタラカン島で激戦の末ジャングルに逃れこれも奇跡的に生き残ることができました。

復員帰国した昭和２１年に、貞一はキリスト教に入信しますが、これは死に何度も飲み込まれそうなった経験が大きな要因と推測されます。

冬のりんご園（1972年・油彩）

貞一は入信のことをほとんど口にすることはなかったそうですが、彼の作品にあるサインを見てください。Wの上に貞一のTが書き込まれていますが、そのTが十字架になっているのです。

サイン（部分拡大）

花みずきの夜（制作年不明・油彩）

貞一は妻であり詩人の渡辺みきこ（美喜子大正１５～平成８）に「絵にいくども生命を救われた」と語っていて、スクラップブックにも「絵画という世界は、死より強いものかも知れない」とも書き残していたといいます。自らの病や戦争により限りなく死へと近づいた貞一を、その度に生へと呼び戻したのは「絵を描きたい」という死をも跳ね飛ばすほどの強い願いだったと思われます。

復員した貞一は、旺盛な制作を続け、昭和３９年には念願のヨーロッパ巡遊の旅に出かけ、独自の心象風景を展開し人気作家となりましたが、昭和５６年に胃ガンにより死去しました。

さて、中井昌美コレクションの作品の内容ですが、初期のフォービズム的な表現の作品、北国青森の風景を描いたりんご園などの作品、二度の海外旅行で取材したスペインやパリが描かれた作品、法隆寺の壁画にヒントを得た釘描による技法で表現した作品、晩年衰弱し、油絵の匂いもたえられぬほど衰弱した体で、制作した水墨画の作品など、貞一の画業を知ることができる豊かな内容となっています。

次回は、中井コレクションの中から代表的な作品を選び、紹介したいと思います。

新規会員入会お誘いのお願いと友の会会員登録更新のお願い

平成28年度も会員の皆様には、友の会運営に多大なご理解とご協力をいただき、誠に有り難う御座います。

早速に更新及び新規入会の手続きを行って下さいました会員の皆様に厚く御礼申し上げます。

平成29年度通常総会も終わり、新年度事業のスタートとなりましたが皆様には一層のご理解とご協力を賜りたく、特に新規会員の勧誘をお願い申し上げます。尚、更新及び新規入会手続きは、美術館窓口と郵便振替により随時行っておりますので、会員各位のお力添えをお願い致します。

○友の会の事業内容
①県内外美術館研修視察旅行（年2～3回）
②海外美術館研修旅行
③美術館作品購入基金への協力
④鷹山宇一記念美術館ボランティア協力
⑤会報の発行
⑥その他（美術講演会の開催等）

○一般会員
会費　（個人）　年度会費　3千円
特典　①無料入館券3枚。会員証提示により入館料2割引き
②ミュージアムグッズ1割引
③研修会、講演会への招待、優待
④他美術館等の視察研修への優待参加
⑤会報の配布

○特別会員
会費　（個人・法人）　年度会費　1万円
特典　一般会員特典に加えて
①会員証提示により個人・法人会員とも本人及び同伴者1名まで無料入館
②新規加入の方に画集1冊贈呈

○賛助会員
会費　（個人・法人）　年度会費　2万円
特典　一般会員特典に加えて
①会員証提示により個人・法人会員とも本人及び同伴者3名まで無料入館
②新規加入の方に画集1冊贈呈
③特別企画展の都度、招待券を贈呈

◇詳しくは、美術館までお問い合わせ下さい。

★会費についてのお知らせ

会費の納入は随時受け付けておりますが、10月1日以降に新規会員となった方は、翌々年の3月31日までを1年度といたします。

☆ 皆様の会報です。
友の会主催の研修旅行
のご意見、ご要望、等
等美術館訪問記、旅行記
をお寄せ下さい。お便り
をお待ちしています。
（字数：８００字程度）

編集後記

田植えが終わり早苗が育ち、水田から聞こえ始めた「かえるの合唱」を楽しみたい・・・。

★会報第87号をお届けします。

新年度においても会員皆様方の美術館訪問記等を写真とともにお寄せ下さるようお願い致します。

（照井壽一）